令和５年度 第３学期終業式 式辞

おはようございます。
今日は、第３学期終業式、令和５年度の最後の日です。
この令和５年度は、皆さんにとってどんな１年間だったでしょうか。

今日は、皆さんに、私が学生時代、一番きつかったことのひとつについてを話します。それは、私が中学２年生の時の話です。

私は、昭和５２年に行橋中学校に入学しました。当時、生徒数が多く各学年１０クラス、全校生徒は１０００人を超えるマンモス中学校でした。そのような中学校に入学し、私は部活動では、バスケットボール部に入りました。
顧問は島田先生。熱血体育教師で、赴任する中学校をいつもバスケットボールの強豪校に育てあげていました。そんな立派な島田先生に、私は運よく出会うことができたにもかかわらず、中学１年生の夏休みにバスケットボール部をやめてしましました。理由は簡単で、練習がきつかったからです。

そんな私が、その年度末の、中学１年生３学期に行われたクラスマッチを見て、衝撃を受けます。クラスマッチの種目でバスケットボールがあり、バスケットボール部を辞めずに頑張っていた友人が、とても溌溂としたプレーをしてかっこよかったのです。特に、私より運動のできなかった友人が、島田先生の熱血指導を受け、見違えるようになっていました。バスケットボール部をやめるんじゃなかったと、心から後悔しました。

翌４月、私は中学２年生になり、クラスメイトの上田君から卓球部に入らないかと誘われました。聞くと、３年生はおらず、同級生の５人だけだというのです。一か月前、友人の見違えるような姿に衝撃を受けた私は、今度は辞めずに続けてみようと決心して、中学２年生４月に卓球部に入りました。そこから予想もしていなかったことが始まりました。

何だと思いますが。練習がきつかったらではありません。
私より１つ年下の学年、１年生部員が１０人以上、入部してきたのです。
私は、その１年生たちと一緒に、素振りから練習をしなければなりません。
ろくに素振りもできない私に対し、１年生は、私を先輩とは思わない。
同級生の上田君には、上田先輩といい、敬語で話しますが、私には、「おい、長野」なんです。「おい長野、お前向こうで球拾いしとけ。」「長野、ネットとってきて」なんとも言えない気持ちでした。しかし、先輩として何も教えてあげられない私は、呼び捨てにされても仕方ない、と割り切って考えました。
　クラスでは、「長野君、数学教えて」などと頼りにされていた面もあったのですが、放課後、部活に行くと、後輩から「おい長野」と言われる。

見かねた友人が、私に次のように言いました。
「長野、お前よく続けるなあ。悔しくないか。俺やったらやめるけどね。」

そんな状況にも負けず、私が中学３年生の夏まで、１年４か月、卓球部を続けた理由がわかりますか。

それは、バスケットボール部をすぐにやめて、「あのとき、やめるんじゃなかった。」と後悔したことを強く覚えていたからです。

また卓球部を途中で投げ出して、やめるんじゃなかったと思うくらいなら、「長野」「長野」と呼ばれるくらい、何とでもない。周りのみんなが、私のことを理解できないかもしれないが、私自身は、私のハートは、自分が決めたことを乗り越えようと頑張っていることを理解していたのです。そう思いつづけて、その後の１年４か月頑張りました。

それは悔しかったです。一つ年下の生徒から、呼び捨てにされるのですから。みんなも簡単に想像つくでしょう。でもね、悔しいことばかりではなくてね、得たものもあるのです。それはね、私自身が、そのようなきつい環境だったけど、それを乗り越えたということ。「お前はよくがんばったじゃないか」と言ってくれるもう一人の自分がいるんです。高校、大学と色々悩むことがありました。今でもこのような教員の仕事をしていると、難しいことやつらいことがあるけど、そのとき、私の背中を押してくれるのは、中学２年生のときのつらい時期を乗り越えたあのときの自分なのです。「あの時、お前は頑張ったじゃないか。後輩に愛想笑いをしながら頑張ったじゃないか。だから今回もきっと乗り越えれる。」そう励ましてくれる昔の自分がいるんです。

だから、皆さん。もしかしたら、今皆さんの中には、中学２年生の時の私のように、悔しい思い、歯がゆい思いをしている人がいるかもしれない。そんな人たちに私は言いたい。その悔しい思い、歯がゆい思いをしっかりと味わってください。それは、みんなが一生懸命頑張っている証です。将来、きっとこの苦い味が役に立つ時がくると信じて頑張ってください。

さらに話は続きます。これは少し自慢話になるのですだけど、中学校時代、パッとしない卓球部員だった私だけど、私は教員になり３０歳の時、卓球部の顧問になりました。選手としては３流でしたが、指導者なら頑張れるかもしれない。そう思い、一生懸命、私は他校の卓球部に負けないように、卓球指導の勉強をし、部員を指導しました。最初は１回戦負けのチームでしたが、４年後、福岡県で男女とも団体３位になる強豪校になり、九州大会に出場できました。その時、思いました。ああ、あのときの中学校時代のきつい時代は、ここのつながるのかと、人生どんなときにも意味があるのだなと感じました。

以上が今日の私の話です。人生は、どんなときにも意味があると私は信じます。きついとき、悔しいときもあるけど、いつかきっとその意味が分かる時が来ると信じて私は頑張っています。この私の話を、皆さんの今後の高校生活の過ごし方の参考にしてくれればありがたいです。来月からは進級し、新しい学年になります。どうぞ日々を大切に過ごし、今のままでいいのかと常に自らに問い、自分らしく輝く未来に向かって進んでいってください。

皆さんの健勝を祈念して、式辞とします。